主婦の坑内見学

毎日ニュース社で映画化

〝ヨーイ、ハイッ〟カメラマンの右手がさっと上る。アイモが鳴る。ジイジイジイ、クランクが回りはじめた。ライトマンの照らすフラットがあたりを真昼のように浮き出させている。坑内衣に身をかためた主婦たちの顔が瞬間ピリット引緊ったようだった。去る八日、毎日世界ニュースが四山主婦たちの坑内見学を撮影する場面である。

東京都中央区銀座新聞研映画ニュース部の毎日世界ニュースでは主婦会で現在行つている坑内見学をニュース映画にしようと、去る八日四山主婦会の福社、熊社分会で分会員四十三名が入坑、見学する場面を撮影、取材した。

この日のカメラマンは同毎日世界ニュース社の石黒運也氏である。石黒カメラマンは砂川基地紛争取材の際決死の活動を続けたことで有名だが、取材のとき警官に殴打され頭から血を流して撮影をつづけ、当時の新聞に報道されている炭鉱地底におけるニュース映画は全国ではじめてのもので、近くこのニュース映画は大映系の映画館で封切の予定である。

山神社に祈願して帰る場面

映画は四山社宅の朝明け風景から主婦たちが四山鉱門内に消えるシーンからはじまり、キャップランプ姿に着換え、全員そろつて山神社に詣り安全を祈つてエレベーターで坑底にさがり、約二時間坑内のあちらこちらを見学するもようを七百フイートの三五ミリフイルムでアイモに納められた。

なお、この日行われた四山支部職場対抗駅伝競走も併録されて花を添えている。

集まる物資の山

助合い運動地域で始まる

正月を控えて生活革命運動とともに年末助け合い運動がことしも主婦会の手で取上げられた。

貧しい仲間たちへ温い手をさしのべようと、厳しい生活の中から各支部では早速、運動に取組んでいる。

四山社宅の各分会ではいま物資のカンパ、金銭のカンパを行つているが、例年殆ど行つていた古衣類カンパ、古雑誌カンパもことしは丁度リコール運動と重面して主婦も活動しているなど、いそがしい時期とかち合つているため、物資カンパをやめて十円、二十円のカンパを行つて物資カンパに代へているところもある。

各分会で集めた衣類、雑誌類は山のように積まれ、分会員の協力を物語つているが、直ちにこれらも換金されている。

こうしていま四山支部ばかりでなく、各支部とも忙しい合間に、今日も主婦たちの間では年末助け合い運動の尊い汗が流されている。

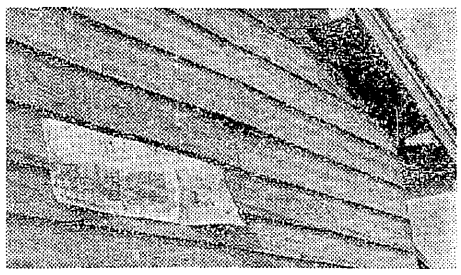
総評ではすでに幹事会を開いて今年の助け合い運動の目標を示しており、職場内で地域内でそして全国的にと運動は温い波を拡げている。

火の用心を

児童達がポスター

四山社宅隣社二分会の児童部では年末の火災予防の一助にでもなるならと児童たちが各自に火災予防のポスターを描き、これを各棟の板壁にはつて年末の火の用心を呼びかけている。

とにかく油断しがちな今日このごろ、この絵を見る人たちに大きな好評を得ている。

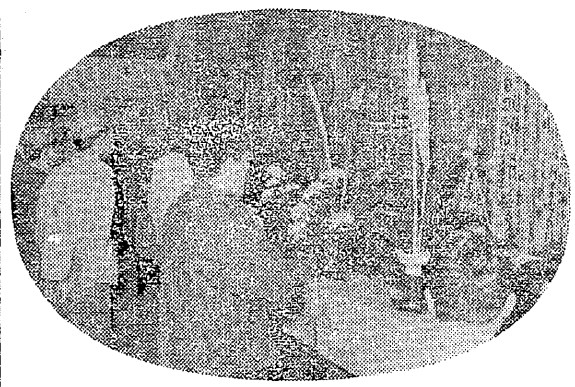


三作で美術展

製作所では去る五日、三作講堂で今年の総合美術展を行つたが、例年にくらべて出品作も多く日本画、写真書道、活花の力作が展示された。総計一四〇点さいきんにない同所の美術展となつた。

【日本画】天位綱頭義夫、地位黒木三鳴人位吉田瑛、前原正二

【写真】（自由作品の部）推薦井原義晴、特賞（一）川口繁巳、特賞（二）古賀次男（キヤビネの部）推薦河野博枝（甘木山撮影の部）推薦川口繁巳、特賞吉嶽、野田幸治



組合へ寄せる書き

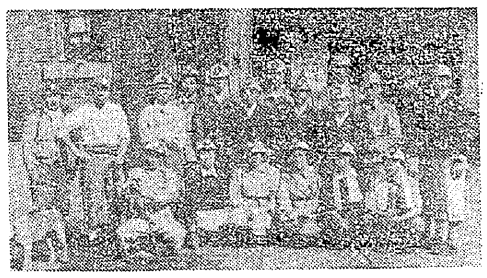
新日窒の青婦部から

先月なかば水俣市の日窒水俣支部の青婦部や合唱団員など若人たちが来組、炭鉱の人たちと交流したいと十数名が訪れた。

一行は組合の動きを聞いたのち、宮浦支部労働部や保安係などの厚意で宮浦坑に下り、はじめて地底の職場に案内されたが、大変感動を受けて帰つて行つた。

◎炭鉱マンの姿になつて人車に誘導されて下つたときはやはり未知の世界をしつたという満足感を得ました。会議室の話で年に数人が死んで行く話は、私のように生協で配給にたずさわつているものには日常あまり考えたことがなく、のんきな私に今度の見学が大いなる反省をあたえました（畑上正人）

◎恐ろしかつたからあなた達（切羽の人）の気持ちが（本当の人間の）わかるような気がします。本当に、本当に私達の進むみちは同じです。（合唱連盟、江良 誠）



○炭鉱労働者の姿、生活をこの肌で感じることができました。この実感が私達働くものの統一をさらに広くおしすすめて行くことと思います。残念だつたのは青行隊の人と話が出来なかつたことです。（小笠去 止）

○始めてみる坑内のスケールの大きさに驚きました。皆さんの仲間入りしたような身の引締る思いでした。（大戸迫輝夫）

○いろいろのお話も私共の大きな力を支えるものと考えています。こんごとも御指導願います。（金林野、岩井 弘）

○炭鉱をお訪ねしたお反達からいろいろお話をきき、私達働く者だけが味わう心の暖かさと、人間の結びつき。私も自分の全身で味わいたかつた。本当に残念でした。（多野 久子）

○炭労がんばれ!!三池がんばれ!!（新日窒青婦部）

○一万六千名の皆さんありがとうお陸我のないよう祈ります。水俣にも一度きて下さい。海と山に温泉があります。ぜひぜひ来て下さい。（山内 実子）

好漢に幸あれ

互譲の精神

堅生部の陣部員も年頃となりいよいよクワショクの典を挙げることになり、吉日を十二月十三日と相定め、生活革命運動を先ず身をもつてと労働会館に場所を定めたところが運命は皮肉で十二日の午前二時より福利厚交が再開され交渉団、小委員会の名誉記憶長として二晩全く仮眠をとるひまもない努力の仕方、十三日の午前十時がおごそかに新郎、新婦のチギリがなされるというので、朝顔を洗うとともに、安全カミソリをかりてひげをそり、あたふたと駆足で結婚式場へ、式場では目出度く結婚式がなされたがその後、過労のため到れるという気の毒な状態。しかし翌十四日は交渉妥結後の整理に元気に出て来たのでみんなが驚いたが、この影には新婦のやさしい看護があつたからであろう。

好漢の前途を祝福したい。

互譲の精神

こんどの福利厚交で所長や労働課長が組合の要求に対して回答するたびに「互譲の精神で……」とたびたび主張するので、執行員の諸君もすつかり覚えて、休会の場合仮眠をとる場合「どうです互譲の精神でフトンに入れんですか」とつめたい足を突込めば「冷たかやつか」と組打となる。仲裁に入つた人も「マアマアそんなに騒動せず互譲精神でどうですか」とこのところ互譲精神が流行。果してPRか？

暗室も完成

港務・行動隊の班活動

港務支部青年行動隊では今月はじめ行動隊総会を開き、情報班、情報連絡班、文化工作班、一般行動班などにわかれて分科会の討議を行つた。いま支部行動隊では以上のような班を設けてそれぞれ活動を行い、それに批判討論を重ねて行動隊を推進しているが、例えば文化工作班（演劇、歌ごえ、幻燈）では、リコール幻燈の録音をテープコーダに吹きこんで役割を果している。

また、写真班ではいままで支部で行われた各種行事や闘争のスナップ撮影したのをまとめて、近く写真集をつくり、これを現場巡回させることにしている。なお、写真部永年の懸案であつた暗室の設備がようやくこのほどかなえられて組合事務所内に工事を急いでいたが、ついに完成された。

人工衛星の父

ツイオルコフスキー物語

いま地球のまわりを二つの人工衛星がまわつています。人工衛星がもつと発達すれば、月や火星へ旅行できる日もそう遠い未来のことではなくなるでしよう。この宇宙旅行と人工衛星についての考えを一ばん最初にまとめあげたのが「人工衛星の父」といわれているツイオルコフスキー博士です。

ツイオルコフスキーはいまからちようど百年まえの一八五七年九月十七日モスクワ（ソビエトの首都）の南のイジェフスコエ村という村で下級官吏の子として生まれました。ツイオルコフスキーは生まれつきねばりづよい意志とすぐれた才能をもつていました。彼は十才のときしようこう熱のためにつんぼになつてしまいましたが、不幸にもめげず子どものころから独学で勉強をはじめました。十四才のころ彼はうすいタバコの巻き紙で気球をつくつたり、風の力ではしる帆車を設計したりしていました。モスクワで勉強したあと、故郷の村で先生をしながら宇宙旅行についての研究をつづけました。二十四才のときからたくさんの論文を発表し、宇宙飛行とくにロケット・エンジンの新しい考えをのべました。一八九五年には「地球と天をめぐる夢物語」というやさしい空想小説をかきました。彼はこの本で人工衛星についての構想をかきました。「人工衛星」というものがここではじめて考え出されたのです。

ついで一九〇三年ツイオルコフスキーは長距離・液体ロケットの研究をまとめた「ロケット飛行体による空間の研究」という論文を発表し、宇宙飛行にロケットをつかうと考えをのべました。ツイオルコフスキーのこの考えにもとづいて宇宙飛行の研究は大きくすすみました。

ツイオルコフスキーはその後もたくさんのすぐれた研究をのこし、一九三五年九月、七十八才でなくなりました。しかしツイオルコフスキーがいつた「私が理論的に証明した宇宙旅行という空想は、やがて現実のものになるだろう」ということばは、彼の死後二十二年目、ソ連の人工衛星の成功でみごとに実現えの一歩をふみ出しました。ツイオルコフスキーのかがやかしい功績をたたえるかのように人工衛生はいま地球をまわりつづけています。

原子力砕氷船

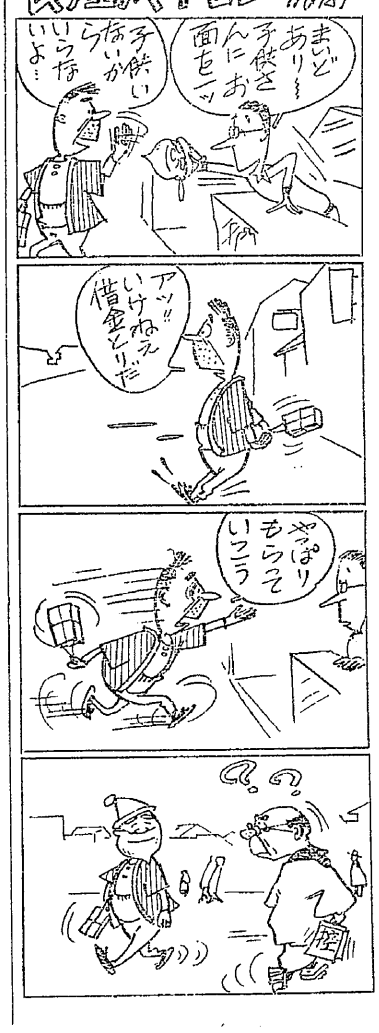
世界ではじめての原子力砕氷船（げんしりよくさいひようせん）ソビエトのレーニン号がもうすぐできあがります。

レーニン号のおもな機関は原子力でできる蒸気でうごくようになつており、蒸気が発電機をうごかしその電気がモーターにおくられスクリューをまわすしかけになつています。主な機関は四万四千馬力で途中で燃料を補給しないで一年間も航行することができるし、世界を三回まわることができます。大きさは一万六千トン（排水トン数）、船室は九百あります。

電気ガマと子供

久しぶりに暇の出来た私は縁先の日だまりで毛糸編みで刻の経つのも忘れていた。そばでは一番下の子供が、友達と二人で漫画の本を見ていたほんとに静かな午後の一刻である。突然「おばちやんげに電気ガマはあるネ」と子供の友達が聞いた。

私は顔も上げずに「電気ガマなんかなかよ」と答えた。するとその子は「わー順ちやんのウソいわすネー。ミシンでんあるちいわしたつばい」といつた。

私はハツと胸をつかれた様な気がして顔を上げ、子供の方を見た。子供は、テレクサそうに笑つていた。「どうしたの」といいながら、私には子供達の或る日の会話が想像されていた。おそらく何かの話のすえに家庭の自慢話の末に家具の話が出たのであろう。そうしてその子が「僕の家ではミシンもミキサーもあるぞ電気ガマでん買いなはつたぞ」といつただろう。そして負けぎらいの私の子が「僕げにもあるぞ」といつたに違いない私は子供に「ないものは〝ない〟とはつきりいえる人が強いのよ」といい聞かせながら少し淋しい気がした。私の家にはミシンもたければミキサーもないまして電気ガマなど思いも及ばない。私は前にその子のお母さんから「うちではこんど電気ガマを買いました」ときかされていた。その家では勿論ミシンもミキサーもある。而しこんなことが子供間の話題になるとは思いがけなかつた。私達はみんなが文化生活の出来る日が一日も早く来る様に希いその為に常に闘いつづけているのであるたとえ一軒でも二軒でもこの様な家庭が出来たことは嬉しいものである。ミシンなど今では生活必需品の一つとなつた。私の家では戦災で焼けだされて十数年ミシンがほしいと思いながらとうとう買うことが出来ないましてこの頃では子供達はだんだん大きくなる、物質は上る一万で食うことだけでやつとその日を過している。

本所N主婦